

## 現状におけるおおいそ学園（児童自立支援施設）の役割と支援

自立支援課長 荒木宏治

児童自立支援施設であるおおいそ学園（以下、学園）に近年入所してくる児童の課題は多様化しており、虞犯・触法等の不良行為をなす児童及び家庭環境や虐待を受けてきた児童、他の社会的養護での不適応をおこし対応が難しくなった児童、性加害等により地域での生活が困難になった児童の受け皿としての役割を果たしています。

このことは、当園だけでなく全国の児童自立支援でも見られる事であり、「枠のある生活」や「集団生活」になじめず、特別なケアを必要とする児童に対しては、より専門性の高い支援がもとめられ、直接処遇の職員の質の向上は元より医療、教育などの関係機関との連携は必要不可欠になっています。

また、学園の入所児童の状況の詳細を見てみると、発達障害や被虐待の特徴である、注意欠陥、多動、衝動性が高い、自分の気持ちを伝えられない、他者と適切な関係を持つことが困難であるといったような課題がある児童が増えており、なかでも精神科薬を服薬している児童が多く在籍しています。

入所経路を見ると他施設等からは2割、家庭からが8割で、その内2割は少年審判です。入所理由の状況で多いのは、性加害が6割弱、次に多いのは能力の脆弱さ、虐待、就労継続ができない、金品持出、窃盗と続き、複合的な理由

で顕著なものは、家庭での養育困難・養育などの理由です。

このような状況の中で、学園も新たに持つべき役割と、より専門性の高い支援が求められていると思います。

新たに持つべき役割としては、児童相談所の一時保護所に高校生年齢の児童が停留する中で、その受け皿としてのニーズが多いことから、園内の既存施設を活用した自立援助ホーム寮の設置することです。現在の梅寮に1ユニットを分離させ、単独の高等部寮を学園内に設置し県が直営で運営するか、県が整備し民間法人に運営を委託すること等の検討が必要であると考えております。

また、専門性の向上については、特に「児童の意思表示」を展開するにあたり、権利擁護意識を高めることや「トラウマインフォームドケア」といったトラウマの理解と適切な対応を意識し、「問題行動」を呈する児童に対してもトラウマのメガネをかけて考え、氷山の下の部分（根底）に視点を当てた支援と支援者が陥りやすいストレスにも視点を当て取組んでいきたいと考えております。



## ～4年振りの開催！収穫祭～

11月23日。例年勤労感謝の日に開催される収穫祭が4年ぶりに開催されました。児童、保護者はもとより、関係機関や、卒園生、元職員、近隣の方々にも楽しみにいただいているおおいそ学園の一大行事です。インフルエンザ等の流行状況から、今回は規模を縮小し、関係者のみでの開催となりましたが、子ども達は、生き生きとした姿で自分たちで育てた農産物や製作物を販売、ディアボロを披露し、来園いただいた方々に喜んでいただく手応えを感じていました。

(地域支援 G 友田)



各寮ごとに売り場やパネル展示の個性が出ていました♪



ステージでは、ディアボロ披露やお楽しみ抽選会を行いました♪



# ～野球部活動報告 全日本少年野球大会第三位～

8/29～30 に全日本少年野球大会が大阪府にて行われました。初戦は静岡県立三方原学園。序盤に点差をつけて試合を優位に進めるも、終盤追い上げられましたが、7対6で勝利。その日2試合目となる2回戦は高知県立希望が丘学園との試合。ダブルヘッダーでしたが、9対3で勝利し、準決勝へ進出しました。翌日の準決勝では、大阪市立阿武山学園と対戦。序盤は先行しましたが、その後逆転されてしまい、残念ながら4対9で敗戦。今回のチーム発足当初は、野球未経験の子ばかりでルールもままならない状況でしたが、全国3位と功績を残すことができました。準決勝敗退直後には涙を流す子もいていろいろな経験ができ、ベストを尽くせたのではないかと思います。応援して下さった皆様、ありがとうございました。(梅寮 田中)



準決勝会場 久宝寺緑地野球場 (大阪府 八尾市)

### 【大会結果】

- 6/15, 29 関東少年野球大会 準優勝
- 8/8～10 神児研野球大会 準優勝
- 8/29～31 全日本少年野球大会 3位

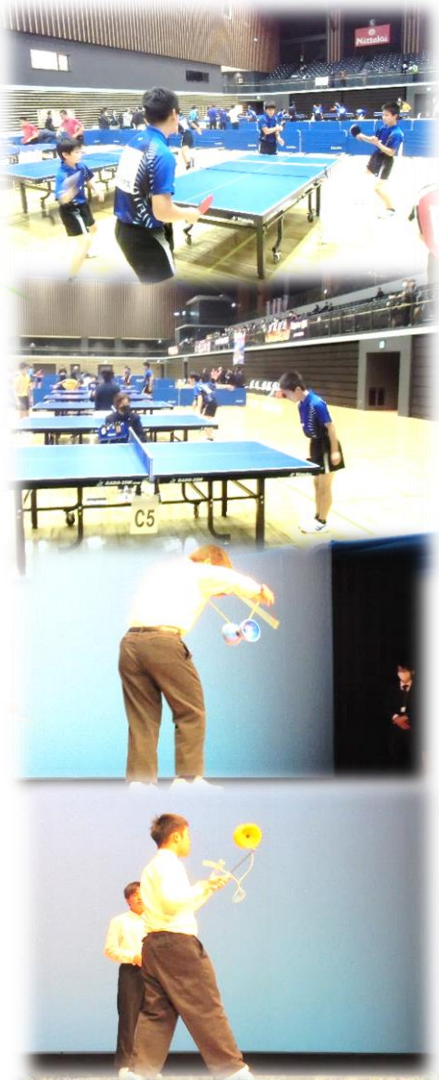


試合前のキャッチボール



第三位 表彰式





## ～関東少年卓球大会～

卓球部は、9月末より活動をし始め、10月には校内・対外試合の結果をもとに選抜メンバーを選考し、関東少年卓球大会に向けて練習を積み重ねてきました。練習メニューは、基礎練習と入れ替え戦を中心に行いました。入れ替え戦は、ホワイトボードに順位表を貼り出し、入れ替え戦の内容や寮生活や分校での態度をもとに順位を入れ替える方法を採用しました。結果、子どもたちのモチベーションに繋がり、団体戦三位、ダブルス優勝、小学生の部準優勝、個人戦五位に入賞することができました。  
(桂寮 山岸)

## ～関東少年文化祭～

夏頃から関東少年文化祭の演目であるディアボロの練習を始めました。未経験の児童も多く、練習当初は本番がどうなるか想像が付きませんでした。しかし、当日になると、みな持ち前の力を発揮し、堂々と演技することができ、驚きとともに感動しました。また、大音量の音楽にも負けないような挨拶を行うことができたことも、非常によい経験となったと思います。なお、今年度は展示作品の鑑賞時間もあり、他施設の作品を楽しそうに見ている姿がとても印象的でした。  
(桂寮 橋本)



## ～児童福祉施設駅伝大会～

当日の天候は「晴れ」、風が強めに吹いていましたが、走るには上々のコンディションでした。今年度の学園の参加チームは、2チーム。参加メンバーについては、「朝マラソンの頑張り」に重きを置き、メンバーを選びました。大会前日まで体調不良者が出るなど、チームとして万全とはいきませんでした。当日は一人ひとりがモチベーション高く、力を出し切りました。日頃の成果が実を結び、とても良い一日となりました。  
(竹寮 松尾)

### 【編集後記】

新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、規模は縮小の形ではありますが、4年ぶりに収穫祭を開催することができました。たくさんのOBの方々が久しぶりにおいそ学園へ近況を報告しに来てくれました。(広報委員会一同)